

劔岳ハツ峰VI峰Cフェース

記 T村M

2023/7/28(金)~30(日)

メンバー: T村M、T村E、S石K、K村

毎年計画していたが、天候に恵まれず中止にしていた劔岳ハツ峰VI峰Cフェースにやっと行くことができた。ハツ峰上部まで長次郎雪渓を利用して行くが、温暖化の影響で年々雪渓の雪どけが進み、雪渓を利用するのはお盆までと言われている。今回は7月末で余裕をもって計画したが、やはり雪は少なく、Cフェース取りつきまで行くのに苦労した。

2023/7/28(金) 晴れ

前夜は、道の駅松川で仮眠。翌朝扇沢へ移動し、朝一番のアルペンルートに乗って室堂まで上がる。室堂は登山客、観光客がごった返していた。



天気は晴天、天気が良すぎて、水分が抜けて行く。劔御前小屋までが本日の核心となった。



劔御前小屋から劔沢キャンプ場へ下り、雪渓から引いている冷たい水を補給し、さらに劔沢雪渓を下って真砂沢ロッジへ向かう。



劔沢雪渓の雪解けは2年前の9月に来た時の状態と同じくらいだったが、長次郎谷の雪渓は出合い付近が完全に割れていた。来年はもっと早い時期でないと、長次郎谷からの登頂は難しくなるだろう。

[ここに入力]



長次郎谷に比べれば、劔沢雪渓はまだ、大丈夫な印象だ。真砂沢ロッジまでは滝の手前から右岸の夏道を使って下る。

真砂沢ロッジに到着。さっそくビールを購入して乾杯。越冬ビールがありなんと300円、ジュースも300円で有難い。モンベルの白米のアルファ米も500円でお店で買うのと変わらない。安い。その後テントを設営し、テーブルで夕食を食べ、しばし歓談、翌朝は4:30出発のため、早めに就寝した。



コースタイム： 室堂 9:20 ~ 9:50 雷鳥荘 ~ 10:07 雷鳥沢キャンプ場 10:30 ~ 12:50 劔御前小屋 13:20 ~ 14:03 劔沢キャンプ場 14:27 ~ 15:58 長次郎谷出合い 16:03 ~ 16:40 真砂沢キャンプ場

2023/7/29(土) 晴れ

4:25 真砂沢ロッジのテント場発。昨日下った夏道を登り劔沢雪渓に出る。

5:10 長次郎雪渓の出合いに到着。出合いの割れた雪渓は左岸のザレた斜面を50mほど進み雪渓に乗る。右岸の方が良さそうに見えたが、降り立つ雪渓が薄くなっていて危なかった。



所々割れた部分があったが、しばらくは雪渓を伝って上がってゆくと、2250m付近の滝の手前で雪渓が切れてしまう。滝の4~50m手前で右岸のスラブの斜面へ移り、アイゼンを外し滝上に出る。



しばらく進むと再び雪渓が現れるが、そのまま右岸のがれ場の踏み後をたどりCフェースの取りつきまで進む。後から考えると、雪渓を使って熊の岩あたりまで進み、そこからガレ場に入った方が楽だったかもしれない。

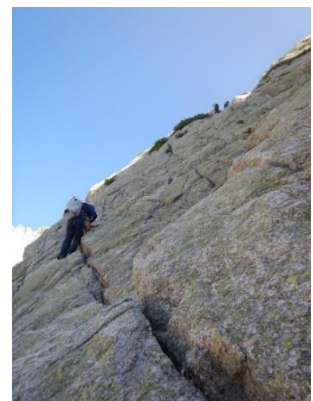


7:50 Cフェース取りつきに到着。今回は4人なので、K村-T村E, T村M-S石Kの2パーティーに分かれての登攀となった。



1ピッチ目(30m):バンド状の岩から凹角を登りテラスへ

先行パーティーがいたが、丁度1ピッチ目の登りに入っているところで、大きな待ち時間なくK村パーティーが1ピッチ目に取りつく。先行パーティーが取りついたクラックを登ってバンドに上がっていたが、結構苦勞している。よく見るとK村さんアプローチシューズで登っていた。そのため、靴がクラックにはまったり、中で滑ったりして苦勞していたみたいだ。(K村さんは最後までアプローチシューズで登っていた)K村さんの登りの苦勞を見た残り3名はバンドの右端から上がり1ピッチ目を登った。T村Mが1ピッチ目リード。登り自体は難しくないが、支点が全然なく、灌木で1カ所だけ支点を取る。



[ここに入力]

2ピッチ目(40m):凹角からフェースを登りハイマツ混じりの凹状へ

S石Kさんリード。出だしの凹角を這い上がり、浮石の多いハイマツ混じりの岩を登り、広いテラスにでる。



3ピッチ目(40m):フェースを左上しリッジの右寄りのフェースを登る。

出だしは、左の切れ落ちたルンゼを少し上がり、フェースに出る。フェースを左よりに登り、左のリッジに一旦入るがすぐに右のフェースに出て登る。傾斜は急だが、ホールドが豊富でさほど難しくはなかった。ここで、K村-T村Eペアはフェースを直上してフェースの上部で左ヘトラバースして3ピッチ目の終了点に戻っていた。剣稜会ルートではなく右のRCCルートに入ってしまったらしい。3ピッチ目の終了点へのトラバースが悪かったみたいだった。



4ピッチ目(20m):高度感のあるナイフリッジ

S石Kさんリード。Cフェースのハイライトで高度感のある10mほどのナイフリッジを長次郎谷側の足場を伝い通過する。足場が安定しているので、先々週に行ったバットレス4尾根の枯木テラスから城塞チムニーへの崩落してできたナイフリッジの方が怖かった?と思う。



5ピッチ目(25m):リッジを登りハイマツ混じりのテラスから2m上がり終了点

T村Mがリード。ホールド豊富なリッジを上がり、一旦ハイマツを抜けテラスに出るが、その上3mぐらいの岩壁を上がり終了点に到着。

11:45 Cフェース終了点でK村-T村Eパーティーと合流。K村-T村Eパーティーは、4ピッチ目と5ピッチ目をまとめて1本で登ったらしく10:50にCフェース終了点に着いていたそうで大いぶ待たせてしまったようだ。

午後からは雷雨予報で昨日もカミナリがゴロゴロしていたため、ハツ峰上部縦走は辞めてここからさっさと下山することにした。VI峰の頭から3ピッチの懸垂で降りられるとのことで、暫く懸垂ポイントを探したが見つからず、5・6のコルに降りて長次郎谷にもどることにした。

[ここに入力]



5・6のコールへ踏み跡をたどって下って行ったが、途中で不明瞭になってしまう。登りで使っていれば下りのルートも把握できていたが、Cフェースを上がってきたので良く分からない。いったんBフェースの頭まで降りてみる。



Bフェースの頭にハイマツに設置された懸垂支点を発見。Bフェースの頭から懸垂で下ってみることにした。K村さんが先行して下って行き、下降後のルートを調べた。50m下降後もさらに懸垂が必要だが、懸垂ポイントが見つからない。Cフェース側にバンドを上がると灌木があったのでそこで2回目の懸垂をすることにする。



全員1ピッチ降りてCフェース側へ移動して灌木から50m懸垂で下ると、Cフェース上の懸垂支点が見つかった。最後はその懸垂支点を使い下ると、なんとさっき登ったCフェース取りつきに降り立つことができた。



15:10 Cフェース取りつきに到着。何だかんだ探しながら3時間半の長い下りだった。後日前週に行った橋本さんに聞いてみると5・6の科尔への下りは立派な懸垂支点があったそうだ。よく探せばよかった。休憩後、長次郎谷の雪渓にでて下る。途中の滝場ではいったんアイゼンを外しスラブ状の岩を下り、滝を通過したのち再び雪渓を下る。朝よりも雪渓の雪どけが進んでいるようだった。



17:30 長次郎谷出合いを通過。

18:06 真砂沢ロッジに到着。早速ビールを購入し乾杯。長い1日でしたが、満足でした。

早速夕食の準備をする。夕食と念願のCフェース登攀達成に祝杯をあげる。

明日は下山のみだが、一度、劔御前小屋まで上るのが大変だ。



コースタイム： 真砂沢キャンプ場 4:25 ~ 5:11 長次郎谷出合い ~ 7:50 VI峰 C フェース取りつき 8:35 ~ 8:45 1P終了点 ~ 9:45 2P 終了点 ~ 10:10 3P 終了点 ~ 11:25 4P終了点 ~ 11:38 5P終了点 12:30 ~ 13:00 B フェース懸垂 ~ 14:17 Cフェース懸垂 14:50 ~ 15:10 Cフェース取りつき 15:25 ~ 17:30 長次郎谷出合い ~ 18:06 真砂沢キャンプ場

2023/7/30(日) 晴れ

この日は下山のみだが、劔御前小屋までの長い登りがある。

6:00 真砂沢キャンプ場を出発。昨日下山した長次郎谷出合いを右手に見ながら劔沢の雪渓を上がってゆく。長次郎谷は日に日に雪どけが進んでいるようだ。後1週間遅かったら、困難度はかなり増していたことだろう。

[ここに入力]



9:30 劔沢キャンプ場に到着。ここから劔御前小屋は見えるが長い登りになる。日差しが暑すぎる。

10:45 劔御前小屋に到着。食べたり飲んだりして30分ほど休憩。ここから一旦雷鳥平キャンプ場まで下りまた雷鳥荘まで登りとなる。

13:05 雷鳥荘に到着。雷鳥平キャンプ場からの登りの階段がつかった。雷鳥荘の入り口に「氷」の表示があった。最初はみくりが池でソフトクリームを食べるつもりでいたが暑さに我慢できず全員一致でかき氷を食べることになった。暑くてバテバテの体にかき氷は最高だった。生き返った。30分ほど休憩。



14:10 室堂着。ここからアルペンルートで扇沢まで下る。

大町温泉薬師の湯で湯につかり3日間の汗を流し、安曇野IC近くの「かつ時」で食事をして帰路につく。

天気に恵まれ三日間楽しい山行でした。ありがとうございました。

コースタイム：真砂沢キャンプ場 6:00 ~ 9:30 劔沢キャンプ場 9:55 ~ 10:45 劔御前小屋 11:15 ~ 12:40
雷鳥沢キャンプ場 12:40 ~ 13:05 雷鳥荘 13:40 ~ 14:10 室堂